

2016年2月期 第1四半期

イオン株式会社 決算説明会

2015年7月8日

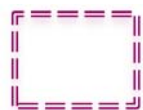
2016年2月期 第1四半期 連結損益計算書（要約）



営業収益並びに営業利益が**過去最高額**を達成（第1四半期）

連結要約損益計算書（単位：億円、%）

主要項目のみ	2015年2月期 第1四半期	2016年2月期 第1四半期	前期比・差
営業収益	17,130	20,194	117.9%
営業利益	224	349	+124
経常利益	251	357	+106
当期純利益	13	50	+37



点線囲みは過去最高額

2016年2月期 第1四半期 連結貸借対照表



連結要約貸借対照表（単位：億円）

資産の部 (主要項目のみ)	2015/2	2015/5	前期差	負債・純資産の部 (主要項目のみ)	2015/2	2015/5	前期差
現預金	8,111	7,236	-875	支払手形・買掛金	9,466	10,239	+772
受取手形・売掛金 (割賦売掛金含む)	10,546	11,679	+1,132	有利子負債 (総合金融除く)	18,450 (11,257)	19,740 (12,084)	+1,290 (+827)
たな卸資産	5,573	5,510	-62	銀行業における預金	19,366	19,686	+320
営業貸付金・銀行業 における貸出金	13,476	15,094	+1,617	負債合計	60,298	63,317	+3,019
有形固定資産	24,672	25,576	+903	自己資本	12,063	12,093	+30
投資その他資産	8,729	8,919	+189	純資産合計	18,299	18,718	+418
資産合計	78,598	82,035	+3,437	負債・純資産合計	78,598	82,035	+3,437

2016年2月期 第1四半期 事業セグメント別業績



(単位：億円)	営業収益		営業利益	
	2016年2月期 第1四半期	前期比	2016年2月期 第1四半期	前期差
GMS事業	6,628	97.5%	-47	-39
SM・DS事業	7,676	128.6%	29	+72
小型店事業	843	115.9%	2	+9
ドラッグ・ファーマシー事業	1,436	357.9%	33	+28
総合金融事業	846	113.9%	124	+27
ディベロッパー事業	663	112.5%	113	+15
サービス・専門店事業	1,865	101.9%	77	+2
国際事業	1,174	126.9%	7	+4
内、アセアン事業 (※)	655	130.4%	19	+9
内、中国事業 (※)	524	122.8%	-10	-3
連結合計	20,194	117.9%	349	+124

※国際事業の地域別内訳は、単純合算数値となります。

ドラッグ・ファーマシー、総合金融、ディベロッパー事業が連結業績に寄与

ドラッグ・ファーマシー

営業利益
昨年差
+ 28 億円

- ・ 【CFS】 既存店舗活性化（調剤、食品・日配品拡大）
- ・ 【CFS】 店舗サービス拡充（血液検査導入etc.）
- ・ 【ウエルシア】 積極出店、既存店活性化

総合金融

営業利益
昨年差
+ 27 億円

- ・ ショッピング取扱高拡大
- ・ カード会員増加（人気キャラクターカード貢献）
- ・ 海外：順調に業容を拡大

ディベロッパー

営業利益
昨年差
+ 15 億円

- ・ 既存モールの活性化
- ・ 新たなコンセプトモールの開発
(イオンモール沖縄ライカムの開設 etc.)
- ・ 海外における収益基盤の強化
(イオンモールBSD CITY(インドネシア) etc.)

ダイエーやSM各社が増益となり、昨年差+72億円と連結業績を牽引

(単位：億円)	営業収益		営業利益	
	2016年2月期 第1四半期	前期比	2016年2月期 第1四半期	前期差
(株)ダイエー(単体)(*)	1,483	97.6%	-23	+14
マックスバリュ北海道(株)	250	104.2%	+0	-0
マックスバリュ東北(株)	283	101.1%	3	+2
マックスバリュ東海(株)	534	103.7%	7	+2
マックスバリュ中部(株)	425	107.4%	3	+7
マックスバリュ西日本(株)	678	102.5%	3	+4
マックスバリュ九州(株)	376	105.8%	1	+1
SM・DS事業計(**)	7,676	128.6%	29	+72

* (株)ダイエーの前期比・前期差：当期のコンセ計上方法変更を反映
：当期からグルメシティ関東・グルメシティ近畿を合併、前期数値に両社を含めて比較

** 事業計数値は、マネジメントアプローチに基づく

【参考：新規連結会社の業績】

USMH(株)	1,630	—	35	—
---------	-------	---	----	---

地域に密着した商品政策や既存店活性化が奏功

MV北海道(株)

- 既存店活性化（生鮮、デリカ強化）
- 曜日市における販売強化による買上点数拡大
- WAONカード会員拡大による客数拡大

MV東海(株)

- 地域深耕の推進
- 既存店活性化・業態転換（14店舗）
- ライフスタイル変化への対応強化（小容量・デリカ等の品揃え充実）

USMH(株)

- 生鮮・デリカの強化
- 夕刻の強化
- 既存店活性化

過年度から継続的に実施してきた改革が奏功し、収益性が改善傾向に

既存店における食品売上トレンドの改善

- ・ 中食を中心とした商品開発
- ・ 生鮮の強化
- ・ プロモーションの見直し
- ・ 活性化の推進

食品の客数、
一点単価上昇

損益構造改革の推進

- ・ 間接コストの削減
- ・ 生産性改善の推進

販売管理費削減

新たな業態の確立

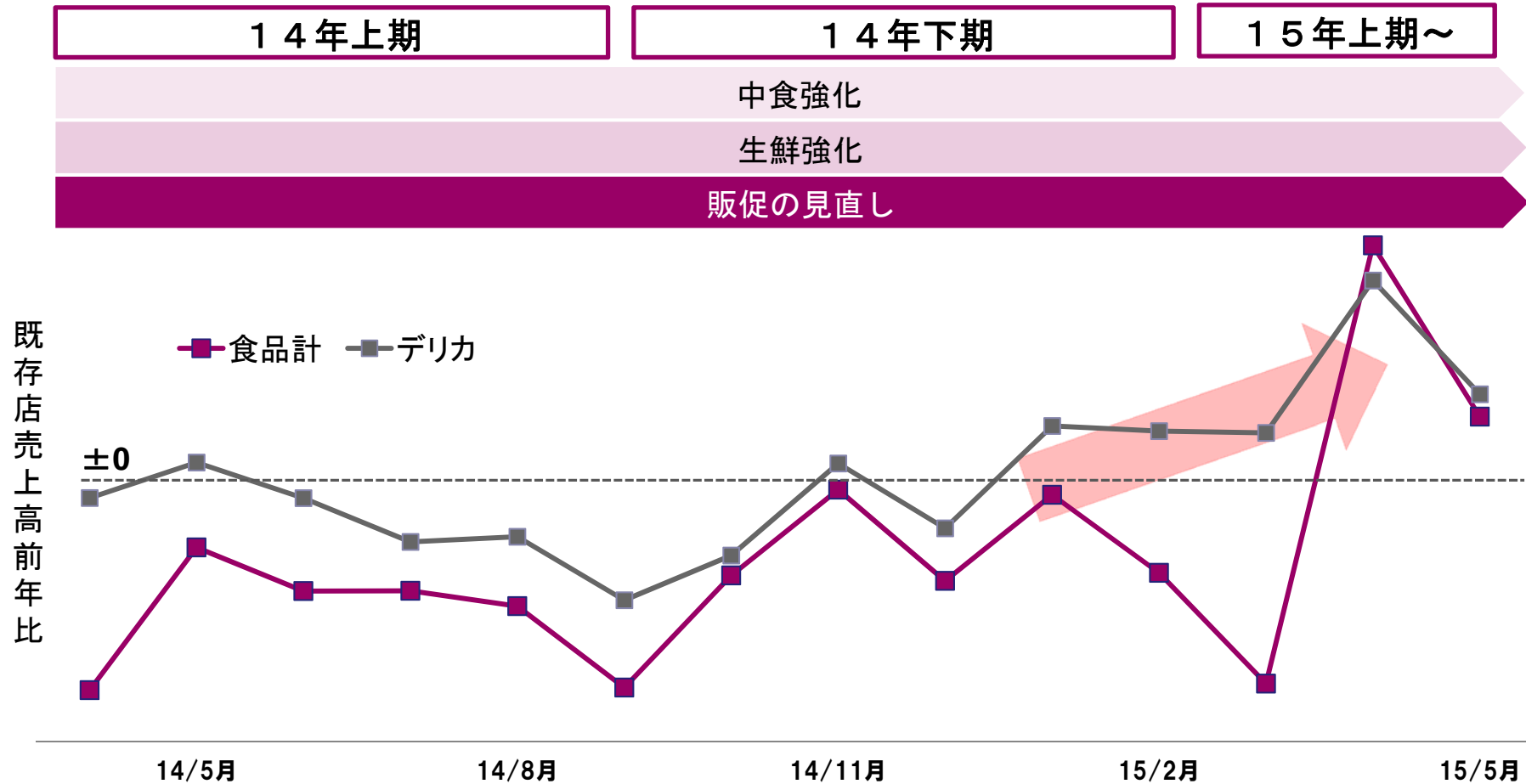
- ・ 都市型SMの確立
- ・ フードスタイルストアの確立

確立に向けた
活性化実施

営業利益
の改善

成長基盤
の構築

中食・生鮮強化、販促見直し等の諸施策が奏功し、
第1四半期の食品の既存店売上高は100.9%、同既存店客数は101.3%と前年を上回る



SM・DS事業 (株)ダイエー 戦略業態「フードスタイルストア」

フードスタイルストア1号店となる赤羽店は前年比約1.4倍（6/20～7/5）と好調なスタート

FRESH FISH



MEAT KITCHEN



AEON FOOD STYLE

トマトバイキング



cafe moriccha



Botanical Shop



既存店売上高は4月度、5月度と改善傾向

単位(%)	3月	4月	5月
イオン リテール (GMS6)	83.0	108.6	105.6
衣料	81.1	109.1	105.9
食品	90.6	105.0	103.4
住居余暇	70.0	118.6	111.1

地域カンパニーへの組織・人材・権限の移管により、スピード感ある改革を推進

主要取り組み

進捗

1. 売り方改革、人材の充実

- ・ 価格主導の販促⇒商品主導の訴求へ
- ・ 採用制度、雇用契約の見直し

- ・内容をフォーカスしたチラシ、商品催事の増加
- ・コミュニティ社員採用の強化

2. 商品改革

- ・革新性ある商品の開発
- ・地域商品の開発、地域仕入の促進

- ・トップバリュの新商品開発
- ・ローカルブランド商品比率の向上

3. 既存店舗の活性化

- ・大型活性化を含め、全店で改装を実行
- ・「イオンスタイル」確立

- ・第1四半期に15店舗大型活性化実施

商品改革 イオンのブランド「トップバリュ」

お客さまに新しい価値をご提案した「トップバリュ」の新商品が好調な実績

トップバリュ セレクト
「ギリシャヨーグルト」



トップバリュ セレクト
「五島塩 ローストビーフ/ポーク」



トップバリュ グリーンアイ
「奄美うまれ生本まぐろ」

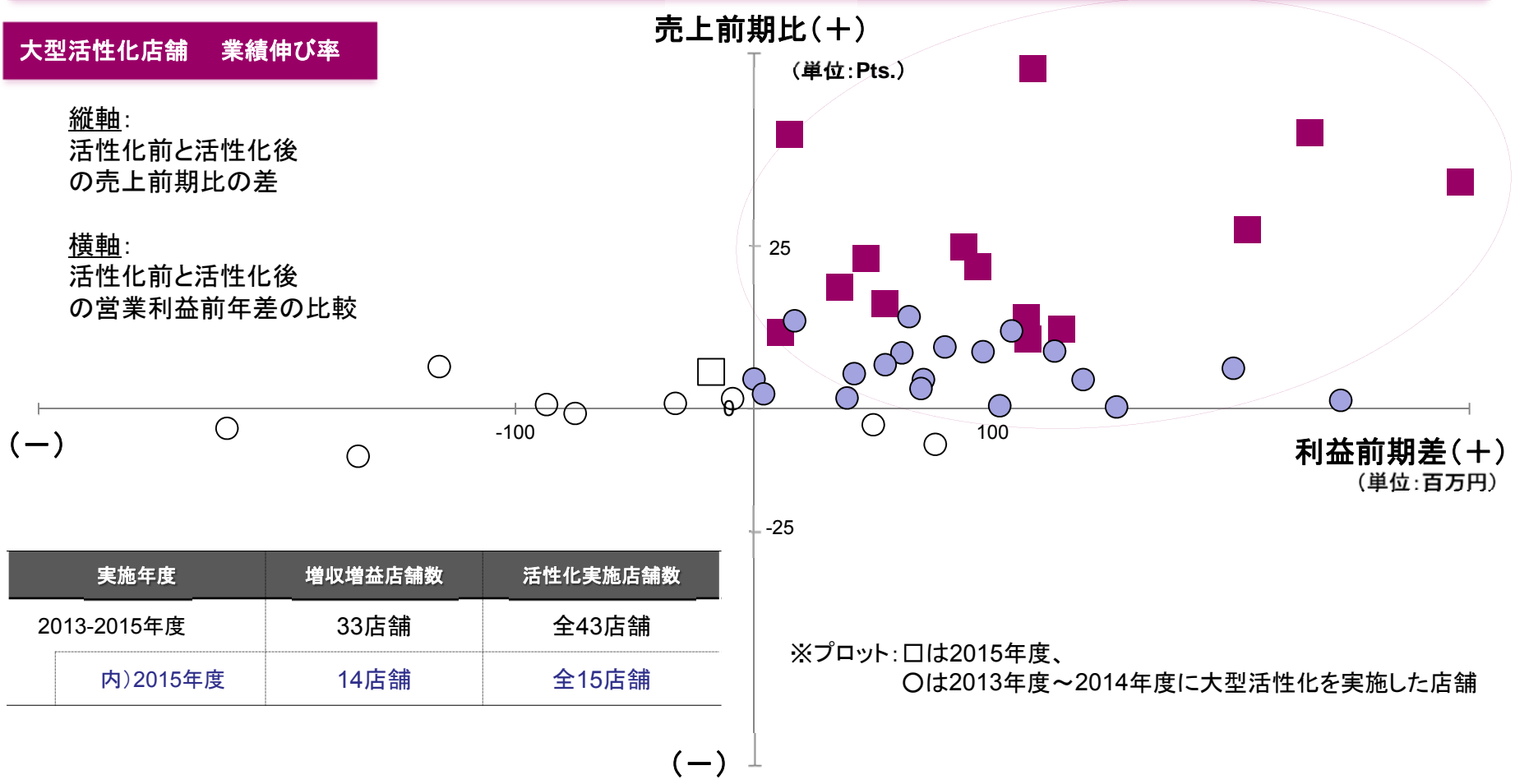


2015年度に実施した活性化店舗は売上・利益ともに伸長し収益に貢献

大型活性化店舗 業績伸び率

縦軸：
活性化前と活性化後
の売上前期比の差

横軸：
活性化前と活性化後
の営業利益前年差の比較



実施年度	増収増益店舗数	活性化実施店舗数
2013-2015年度	33店舗	全43店舗
内)2015年度	14店舗	全15店舗

年間公表数値達成に向けて第1四半期は順調に推移
第2四半期以降も増益を達成するべく改革を加速

(単位：億円、%)	2016年2月期 予想	前期比・差
営業収益	80,000	113.0%
営業利益	1,750	+337
経常利益	1,650	+125
当期純利益	425	+5

- ・ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ・ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ・ この資料の著作権はイオン株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。